

(公開学習Ⅱ)

小学校第4学年2組 道徳学習指導案

授業者 木原 一彰
小学校 4年2組教室

1 主題名 日本を愛し、世界に羽ばたく（主として 4－（6）愛国心、国際理解）

2 資料名 太平洋の橋になりたい～新渡戸稲造～（自作資料）

3 授業構成

（1）教師と教材

本題材は、新学習指導要領の次の内容に位置づけられる。

第3学年及び4学年の内容

4 主として集団や社会との関わりに関すること

（6）我が国の伝統と文化に親しみ、国を愛する心をもつとともに、外国の人々や文化に関心をもつ。
「指導計画の作成と内容の取り扱い」3

（3）先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材とし、児童が感動を覚えるような魅力的な教材の開発や活用を通して、児童の発達の段階や特性等を考慮した創意工夫ある指導を行うこと。

道徳的価値は人間の生きることに関わるものである以上、単に高い価値としてあらわれているというだけでなく、そこに込められた人間としての在り方や生き方、リアリティーが感じられるものである必要がある。そういった意味で、道徳の時間における感動資料としてもっとも適切なものの一つが伝記資料であると考え。

本資料は、新渡戸稲造の生涯について、彼の著書である『武士道～日本人の魂～』を書くに至るエピソードと、世界平和のために困難な状況のなかで奮闘する姿に焦点を当てた話である。日本と西洋との橋渡し役になりたいと外国に渡り活躍する稲造が、真に互いの国を理解するためには、まず自らの国のことを知り、それを相手に正しく伝えていくことが重要であるということに気づき、生涯を通して実践していくという資料である。本時は、主として内容項目の4－（6）「愛国心」をねらいとしている。特にこの資料では、自らの役割と責任として、日本の風土に根ざした道徳観のすばらしさを外国に伝えたいと活動した稲造の、強い意志と実行力を子どもたちに感得させることが重要であると考え。新渡戸稲造の生き方にふれ、感じ、考え、自らを振り返ったときに、自分もかくありたいと思えるような道徳的心情を育むことができるよう活動を深めていきたい。

また、新渡戸稲造の愛国心の発露として、自分でやろうと決めたことは最後まで粘り強くやりとげる姿（不撓不屈）や、たとえ批判を受けても、正しいと判断したことは勇気をもって行う姿（勇気）などにこだわりをもって考える児童もいると予想される。また、「日本の立場に対する理解を得るために世界に対して訴え続ける」という稲造の行動への疑問や迷いを感じる児童もあるであろう。人の生き方を考えるときに、行為を支える価値観を多様な視点から見つめていくことが重要であると考え。たとえ、それが資料の主人公の弱さや迷いに関する部分であったとしても、児童一人一人が人間の生き方についてこだわりをもって考えていくことで、児童が自分の生き方を主体的に見つめ直し、考えを深めさせることができる考える。

（2）子どもと教師

本学級の児童は、これまでの道徳の学習において、資料の登場人物に対する感動や疑問をもとに、話し合うための視点をもって学習を進めることができるようになってきた。また、登場人物の思いを自分の生活経験から想像し、自分ならどのような心情になるかを考えながら発言しようとする児童も増えてきた。さらに、朝自習の時間や複数単元での授業構成など、事前に題材として取り上げる人物について紹介することで、それぞれの子どもたちなりの人物観をもちながら学習を進めることにも取り組んでいる。そして、友達の発言と重ねながら自分の思いをより深めていったり、友達の発言のよさに気づいて自分の考え方を変えていったりするような話し合い活動へ高めたいこうと取り組んでいる。

本時の主なねらいとする価値に関する児童の実態としては、英語活動の時間に意欲的に取り組んで

いる姿があげられる。日常的になかなか外国の方とふれあう機会がないなかで、英語活動でお世話になっているALTの先生との活動によって、臆することなく外国の方とコミュニケーションをとろうとする児童が増えている。また、放課後に英会話教室に通って、コミュニケーションツールとしての英語を学んでいる児童もいる。また、本校が実施している春川教育大学附設初等学校との交流では、県の交流員や留学生を招いて、韓国の言葉や文化、生活について学習している。しかし、日本の文化や伝統に誇りをもち外国の方に伝えた経験のある児童はほとんどいない。この資料の学習を通して、日本の文化や伝統を大切にすることが、自分の国に誇りをもつことになると同時に、外国の方からも信頼されるということを実感できるような学びにしたい。そして新渡戸稲造の生き方のすばらしさを感じ、自分を取り巻く社会のなかで、自分がどうありたいかについて考え、実践していこうとする意欲を高めていきたいと考える。そのためには、単なる「愛国心」の知的理解にとどまるのではなく、「不撓不屈」や「勇氣」など多様な諸価値のフィルターを通して新渡戸稲造の生き方を見つめ、自らの生き方に重ねることができるようにしたいと考える。

(3) 子どもと教材

新渡戸稲造に対する感動と話し合い活動の活性化を促すために、まず、児童に新渡戸稲造という人物について知ってもらう必要がある。中学年ということや新渡戸稲造に関する子ども向けの読み物も限られていることから、彼の生涯を年表として児童に配布した。児童が新渡戸稲造の生涯をとらえやすくとともに、資料のなかに描ききれなかった部分を補完することを意図している。また、新渡戸稲造の著書である「武士道～日本人の魂～」の内容をトピック的にカードにして教室に掲示し、彼が外国の人々に伝えたかった日本人のすばらしさとそこに込められた思い、当時の様子などについて短時間話をするを続けた。少しでも「武士道」にふれておくことで、児童が学習のなかで、それぞれの新渡戸稲造に対する見方をもとにして話し合い活動を進めることができると考えたからである。また、教室内に常に数冊の新渡戸稲造の伝記を置き、子どもたちがいつでも読める状況をつくった。

本時では、新渡戸稲造の生涯について初発の感想を出し合う活動を通して、「太平洋の架け橋になりたい」という志を立てて歩んでいこうとする彼の姿に共感させたい。そのなかで、子どもたちは、「なぜ、『武士道』を書いたのか」という部分に話し合いの中心を置くと考えられる。この問いに対して、稲造の意志を支えているものは何かという視点を持たせながら考えていく。そうすることで、子どもたちは今まで学んできた新渡戸稲造の生き様を振り返りながら、日本と西洋の橋渡し役になりたいという思いや、外国の人が日本人や日本の文化に対して理解がないという現実、それに対して説明ができないでいる自分のふがいなさなど、多様な視点から話し合いを進めることができる。また、「日本からもアメリカからも敵だといわれながらも、死の間際まで世界に平和を訴え続けたのはなぜか」を考えることで、稲造の不撓不屈や勇氣ある生き方の原動力となっているのが、日本を愛する心と世界平和への強い思いが基盤となっているということに気づかせたい。そして、本当の意味で外国と交流するためには、相手の国の文化を知るだけではなく、日本の文化や伝統に誇りをもち、相手に伝えていくことが大切だということをとらえさせたい。さらに、話し合い活動の後半では、新渡戸稲造の生き方から学んだことを自らの生活に返して具体的に考えさせるようにしたい。そうすることで、本時で学んだ新渡戸稲造の生き方を、自分の生き方のモデルの一つとすることができると思う。

4 本時の学習

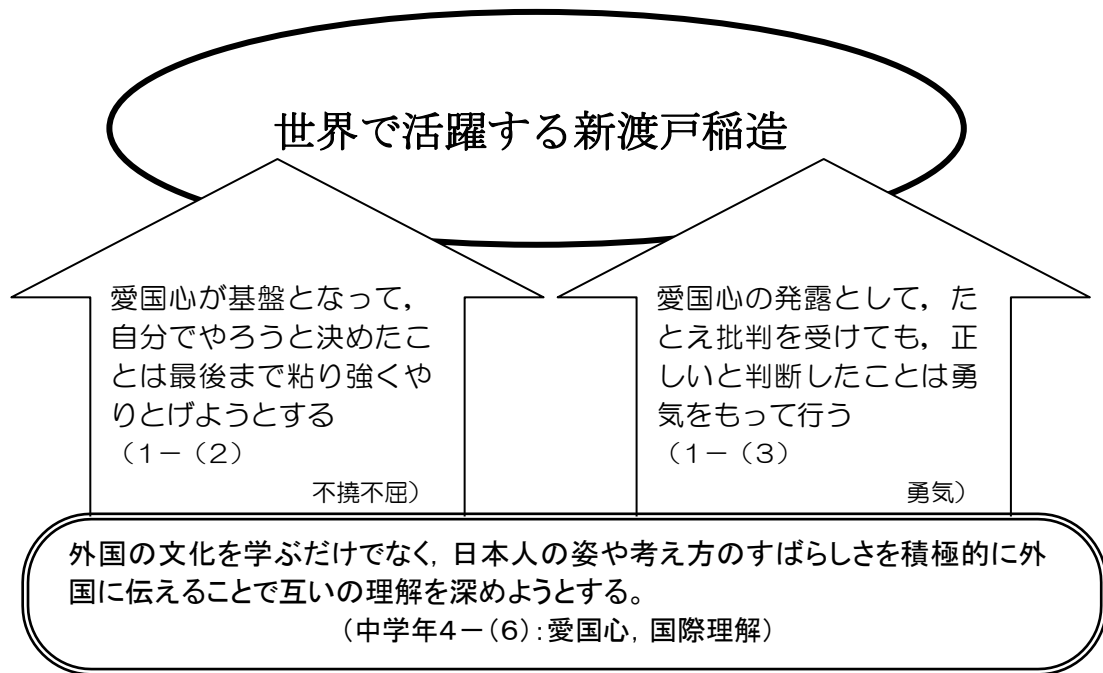
(1) 本時の目標

新渡戸稲造の生き方に迫る話し合い活動を通して、愛国心をもって世界で活躍する姿に共感するとともに、彼の活動を支えていた思いについて自らの視点をもって考えることができる。

(2) 期待される児童の様相

- ・ 新渡戸稲造の生き方に対する思いや疑問から、本時の学習で追究したいことについて考える。
- ・ 新渡戸稲造の生き方を支えた思いは何かについて、多様な視点から考え、話し合う。
- ・ 新渡戸稲造の生き方を支えていた思いについて自らの視点を持ち、自己の生き方を振り返る。

(3) 本時の学習における価値の構造



(4) 準備

資料「太平洋の橋になりたい～新渡戸稲造～」, 提示用写真, ワークシート

(5) 本時の展開

(○教師の意図 ◇教師の支援)

学習過程	主な発問と児童の反応	教師の支援・意図
1 感想の分析	○「太平洋の橋になりたい～新渡戸稲造～」を読んで感想をもつ。	○資料の内容を正しく共感的に把握させる。
2 問題の焦点化・共通化	○資料の主人公の生き方に対して、どんな感想をもったか。 ・『武士道～日本人の魂～』という本をアメリカで出版し、たくさんの外国の人に読まれたことがすごい。 ・進んで外国に留学したり、日本の代表として世界で活躍したりしてがんばっていることがすばらしい。 ・日本やアメリカでいろいろなことを言われたのに、それでも活動を続けたのはなぜだろう。	◇資料の主人公である新渡戸稲造が旧5000円札の肖像になるほど評価が高いことについて紹介する。 ○『武士道』を著し、日本と世界の平和のために尽力した稲造の姿に感想や問題意識をもつ児童が多いと考えられるので、本時において追究する問題をそこに焦点化させる。
新渡戸稲造の生き方を支えた思いについて、話し合い活動を通して迫ろう		
3 問題の明確化・追究	○なぜ、新渡戸稲造は『武士道』を書いたのだろう。『武士道』という本にこめられた稲造の思いに迫ろう。 ・外国の人が日本のことをあまり知らないから、日本のすばらしさを自分が知らせたいと思ったから。 ・外国の人に日本のことをうまく知らせる	○「太平洋の橋になりたい」という彼の思いを支えていたものが、日本のすばらしさを伝えたいという愛国心の発露であることに、話し合いを通して迫らせたい。 ◇『武士道』の内容だけでなく、初めのきっかけから10年たっていること、

	ことができなかったことがくやしかったから。 ・外国の人に日本人のすばらしさを知ってもらうために、よりきちんと伝えたいという思いを込めて全文英語で書いた。 ◎日本からもアメリカからも敵だと言われながらも、死の間際まで世界に対して日本の立場を訴え続けたのはなぜか。 ・今まで国際連盟の事務次長として、世界に平和を訴えてきたのだから、これくらいのことであきらめたくなかった。 (不撓不屈) ・自分の言っていることは正しいと信じていたから、負けないで訴え続けた。(勇気) ・日本とアメリカとの対立の原因は、互いの国のことがよくわかっていないからだと考えたから。(愛国心・国際理解) ・日本とアメリカとが戦争をしないためには、話し合いのなかできちんと主張し、理解し合おうとする態度が大切だということをすべての人にわかってほしかったから。(愛国心・国際理解)	全文英語で書かれていること、アメリカを初め諸外国で出版されていることなどより多様な視点から新渡戸稲造の思いを想像させる。 ○新渡戸稲造の行動を支えていたものが日本を愛する心と世界の平和への願いであることに話し合いを通して迫らせたい。 ◇考えにくい児童については、新渡戸稲造の生涯を表した年表も参考にして考えるようにする。 ◇新渡戸稲造が著した『武士道』の7つの精神(仁、義、礼、勇、忠義、名誉、誠)も参考にし、彼の思いをより多様な視点から想像し、話し合いを深めることができるようにする。 ○新渡戸稲造の活動が多くの人々に伝わり、支持されていたことを共感的にとらえさせ、価値の主体化へとつなげていく。
4 価値の主体化	○新渡戸稲造の生き方からどんなことを学んだかまとめてみよう。 韓国の春川附設初等学校の友達と交流するときに、大切にしたいことはどんなことだろう。 ・新渡戸稲造は、外国の文化をしっかりと学んで交流をしていたから、自分も韓国の言葉や文化を勉強したい。 ・まずは、日本のことをよくわかってもらうために、何を伝えたらよいかしっかりと考えたい。 ・日本の文化や伝統をあまり知らないのので、まず日本の特徴のある伝統や文化を調べたい。	○新渡戸稲造の生き方から学んだ「愛国心・国際理解」の精神について自己の生き方に生かせることを考えさせる。 ○稲造の生き方を支えたものを自らの視点とし、自分の生活のなかの具体的な場面に重ねて考えられるようにする。 ◇ワークシートに記入し、それぞれの思いを語るなかでさらに自己の生き方について考えを深める。 ◇子どもたちがより多様な考え方を知り、自分の価値観との違いを明らかにするために、挙手による指名だけでなく、意図的指名も取り入れる。
5 本時で学んだことの確認		○教師の説話を聞き、学習のまとめとする。

(参考文献等)

- ・『『武士道』を原文で読む』宝島社編
- ・「世界の伝記 新渡戸稲造」集英社
- ・「物語・20世紀人物伝」ぎょうせい
- ・「新渡戸稲造―生涯と思想」佐藤全弘著 キリスト教図書出版社
- ・「新渡戸稲造の生涯」須知徳平著 熊谷印刷出版